

競技要項 フィギュアスケート

1. 競技種目

- ① レベル A (ビギナー種目)
- ② レベル B (ビギナー種目)
- ③ レベル I
- ④ レベル II
- ⑤ レベル III
- ⑥ レベル IV
- ⑦ レベル V
- ⑧ レベル VI

*①②はスペシャルオリンピックス日本のローカル種目

2. 会 場

磐梯熱海アイスアリーナ

3. 競技ルール

国際スケート連盟(ISU)競技規則最新版、日本スケート連盟(JSF)競技規則最新版、公式スペシャルオリンピックス冬季スポーツルール(2010年1月改訂版)による。ただし、本大会ルール委員会によって定められた細則が優先する。

4. エントリー

1人1種目のエントリーとする。

5. デイビジョニング

アスリートおよびコーチは、公式スペシャルオリンピックス冬季スポーツルール(2010年1月改訂版)第1章総則セクションIを参照のうえ、デイビジョニングについて良く理解しておくこと。

6. 競技方法

1) コンパルソリー・エレメント・プログラム

(1) レベル A

- ・ スケーターは、レフリーが指示した地点から演技を開始しなければならない。
- ・ スケーターは、次のエレメントを個別に滑らなければならない。なお、演技は1回とする。
 - a. 氷上歩行 3m または 10 歩(補助なし)
 - b. 少なくとも身長程度の距離を両足で前進滑走

(2) レベル B

- ・ スケーターは、レフリーが指示した地点から演技を開始しなければならない。
- ・ スケーターは、次のエレメントを個別に滑らなければならない。なお、演技は1回とする。
 - a. 後方に身長程度の距離を歩行
 - b. フォアのスイズル 5 回で 3m 以上の区間を前進
 - c. 少なくとも身長程度の距離を膝を曲げて前進滑走

(3) レベル I

- ・ スケーターは、レフリーが指示した地点から演技を開始しなければならない。
- ・ スケーターは、次のエレメントを個別に滑らなければならない。なお、演技は 1 回とする。
 - a. 10m のフォアスウィズル
 - b. 10m のバックスウィズル
 - c. 片足スノープラウストップ(左足もしくは右足)

(4) レベル II

- ・ コンパルソリーのエレメントグループの演技は 1 回とする
 - a. スケーターは、リンク上で同一方向に 180 度ターンを続けて 2 回行い、得点を得る為に停止(ストップ)しなければならない。
 - ・ スケーターは、リンクのいずれかの端から演技を開始する。
※パイロン・コーンなどでスタート・ゴール位置の目印を決める。
 - ・ スケーターは、レフリーから開始の指示があった時に演技を開始する。
 - ・ スケーターは、リンクの長さの約 1/3 地点までフォアストロークで前進する(スウィズルは禁止。スウィズルに対しては 0.2 の強制減点が課せられる)。
 - ・ スケーターは、最初のパイロン(青色ライン)でフォアからバックヘターンを行う。
 - ・ ターンの後、リンクの長さの約 2/3 地点までバックストロークで滑走する(スウィズルは禁止。スウィズルに対しては 0.2 の強制減点が課せられる)。
 - ・ 2 番目のパイロン(ライン)でスケーターは、バックからフォアヘターンを行う。
 - ・ ターンの後、スケーターはフィニッシュライン(パイロン)まで前進する。
 - ・ フィニッシュライン(パイロン)で T 字ストップを行う。
 - b. ホッケーサークルでフォアクロスをフィギュアエイトのパターンで滑走する。時計回り、および反時計回り(間は止まらずに)。1 つのサークルにつき最低 5 回のクロスを行う。

(5) レベル III

- ・ スケーターは、レフリーが指示した地点からエレメントの演技を開始しなければならない。
- ・ スケーターは、レフリーの指示があった時に演技を開始する。
- ・ スケーターは、次の演技を行わなければならない。
 - a. アウトエッジ、インエッジを使って前進する。左右の足を正しく交互に入れ替えながら、短いストロークで滑る。リンクの横幅を右足からスタートして左足に替え、連続して 4 エッジ分(アウトエッジ、およびインエッジ)滑る。
 - b. スケーターは、右足フォアアウトスリーターンと左足フォアアウトスリーターンを行わなければならない。この技は 2 回行わなければならない。スケーターは、ひと蹴りでスリーターンを行う。スリーターンを行う時、各スリーターンの前後、および最中に 1m しか滑ってはいけない。
 - c. スケーターは、右のフォアインエッジから左のバックインエッジのオープンモホークと左のフォアインエッジから右のバックインエッジのオープンモホークを行う。フリーレッグをターンの前後では伸ばしてはいなければならない。
- ・ 上記の各エレメントに対して、演技は 1 回とする。
- ・ スケーターは、上記のエレメントを個別に演技する。

(6) レベル IV

- ・ スケーターは、レフリーが指示した地点からエレメントの演技を開始しなければならない。
- ・ スケーターは、レフリーの指示があった時に演技を開始する。
- ・ スケーターは、次の演技を行わなければならない。

- a. アウトエッジ、インエッジを使ってバック滑走する。左右の足を正しく交互に入れ替えながら短いストロークで滑る。リンクの横幅を右足からスタートして左足に替え、連続して4エッジ分(アウトエッジ、およびインエッジ)滑る。
- b. サークル上でフォアクロス、インサイドモホーク、バッククロス、前進を行う(ステップシーケンスは2回繰り返し、左回りと右回りの両方演技しなければならない)。
 - * スペシャルオリンピックスフィギュアスケートルールブック P.8 図:参照
- c. ワルツスリーステップシーケンス
 ワルツスリーステップはフィギュアエイトのパターンで行われる。2歩の助走を加えてもよい。RFO スリーターン、LBO 滑走(繰り返し)から両足滑走でスタート位置に戻り、LFO スリーターン、RBO 滑走(繰り返し)を行う。スリーターンとバック滑走の時のフリーレグは選択自由。最低3回、1つのサークルにつきスリーターン / バック滑走のシーケンスを行う。
 - * スペシャルオリンピックスフィギュアスケートルールブック P.9 図:参照

(7) レベルV

- a. LBO スリーターン — LFI モホーク(繰り返し)
- b. RBO スリーターン — RFI モホーク(繰り返し)
 - * スペシャルオリンピックスフィギュアスケートルールブック P.10 図:参照
- c. RFO から RFI ヘチェンジエッジ — LFI スリーターン
 - * スペシャルオリンピックスフィギュアスケートルールブック P.11 図#3 参照
- d. RFI から RFO ヘチェンジエッジ — LFO スリーターン
 - * スペシャルオリンピックスフィギュアスケートルールブック P.11 図#4 参照
- e. LFO から LFI ヘチェンジエッジ — RFI スリーターン
 - * スペシャルオリンピックスフィギュアスケートルールブック P.11 図#5 参照
- f. LFI から LFO ヘチェンジエッジ — RFO スリーターン
 - * スペシャルオリンピックスフィギュアスケートルールブック P.11 図#6 参照
- g. エlement c と d はリンクの長さに沿って行われる。最大4歩の助走を行ってもよい。
- h. エlement e と f はリンクの長さに沿って行われる。最大4歩の助走を行ってもよい。

(8) レベルVI

- a. リンクの長い方の端から端までフォアクロスストローク。リンクの長い方の端から端までバッククロスストロークで滑る。
 - * スペシャルオリンピックスフィギュアスケートルールブック P.12 図参照
- b. ブラケット
 - i : RFO ブラケット→LBI ブラケット→ストップ(クロージングサークル)。
LFO ブラケット→RBI ブラケット→ストップ(クロージングサークル)。
 - ii : RFI ブラケット→LBO ブラケット→ストップ(クロージングサークル)。
LFI ブラケット→RBO ブラケット→ストップ(クロージングサークル)。
 - * スペシャルオリンピックスフィギュアスケートルールブック P.13 図参照

2) フリースタイルプログラム

(1) レベルⅠ

- ・ スケーターは、リンクの上のどこからでも演技を開始できる。
- ・ スケーターが演技を開始した時点でジャッジと計時が開始される。
これは、初心者のためのフリースタイルプログラムである。バランス、滑走、動作の開始の出来栄に重点を置き、バッジ 1—5 から選択されたエレメントを含むバランスの良いプログラム(バッジプログラムはスペシャルオリンピックスフィギュアスケートスキルブックに記載されている)。
- ・ バッジ 6 以上のエレメントをプログラムに含んではならない。違反した場合は、追加した各々のエレメントに対し 0.2 の強制減点が行われる。
- ・ エレメントの技はどの順序で演じてもいい。
- ・ スケーターは、決められた数の技を行う必要はないが、得点は演技の質と内容に基づいて判定される。
- ・ プログラムは器楽演奏による音楽に合わせて演じられなければならない(ボーカルは不可)。ボーカルの使用に対しては 0.2 の強制減点が行われる。
- ・ プログラムは 60±10 秒の制限時間を越えてはならない。

(2) レベルⅡ

- ・ スケーターは、リンクの上のどこからでも演技できる。
- ・ スケーターが演技を開始した時点でジャッジと計時が開始される。
- ・ これは、上級初心者のためのフリースタイルプログラムである。滑走とターンに重点を置き、バッジ 1—10 から選択されたエレメントを含むバランスの良いプログラムである(バッジプログラムはスペシャルオリンピックスフィギュアスケートスキルブックに記載されている)。
- ・ 両足スピン 1 回以外のいかなるスピン、またバニーホップ 1 回以外のいかなるジャンプも、追加した各々のエレメントに対しては 0.2 の強制減点が行われる。
- ・ エレメントの技はどの順序で演じてもいい。
- ・ スケーターは、決められた数の技を行う必要はないが、得点は演技の質と内容に基づいて判定される。
- ・ プログラムは器楽演奏による音楽に合わせて演じなければならない(ボーカルは不可)。ボーカルの使用に対しては 0.2 の強制減点が行われる。
- ・ プログラムは 1 分 30 秒±10 秒の制限時間を越えてはならない。
- ・ バッジ 11 以上のエレメントをプログラムに含んではならない。違反した場合は、追加した各々のエレメントに対し 0.2 の強制減点が行われる。

(3) レベルⅢ

- ・ スケーターは、リンク上のどこでも演技を開始できる。
- ・ スケーターが演技を開始した時点でジャッジと計時が開始される。
- ・ これは、中級者のためのフリースタイルプログラムである。フローとキャリングに重点を置き、バッジ 1—12 から選択されたエレメントを含むバランスの良いプログラムである。(バッジプログラムはスペシャルオリンピックスフィギュアスケートスキルブックに記載してある)スケーターはシンプルフットワーク、ムーブズインザフィールド(スパイラルやラウンジ等)を演技でき、サルコウジャンプ・トゥループジャンプを行っても良い。(ルールブック P.7 参照)

- ・片足スピン 1 回以上のいかなるスピン、またサルコウジャンプ・トゥループジャンプ 1 回以上のいかなるジャンプも、追加したそれぞれのエレメントに対し 0.2 強制減点が行われる。
- ・エレメントの技はどの順序で演じてもいい。
- ・スケーターは、決められた数の技を行う必要はないが、得点は演技の質と内容に基づいて判定される。
- ・プログラムは器楽演奏による音楽に合わせて演じなければならない(ボーカルは不可)。ボーカルの使用に対しては 0.2 の強制減点が行われる。
- ・プログラムは 2 分 ± 10 秒の制限時間を越えてはならない。

(4) レベルⅣ

- ・スケーターは、リンクの上のどこでも演技を開始できる。
- ・スケーターが演技を開始した時点でジャッジと計時が開始される。
- ・これは、上級者のためのフリースタイルプログラムである。スピンとジャンプとフットワークに重点を置き、フリースケーティング(自由演技)のエレメントを含むバランスの良いプログラムである。プログラムには半回転のジャンプとサルコウジャンプ、トゥループジャンプ、ループジャンプを加えてもいいがその他のフルローテーションジャンプを加えてはならない。プログラムには、両足スピンから外側の足を上げるスピン(バックスピンから始める)を1つ加えてもいいが、他の足換えスピンをしてはならない。
- ・上記で説明されたように、1 回のサルコウジャンプ、トゥループジャンプ、ループジャンプ以外のいかなるフルローテーションジャンプや、バックスピンから始まるいかなる足換えスピンは、追加した各々のエレメントに対し 0.2 の強制減点が行われる。
- ・ワルツジャンプ、トゥループジャンプまたはサルコウジャンプ、トゥループのコンビネーションジャンプを加えてもいい。
- ・プログラムは器楽演奏による音楽に合わせて演じなければならない(ボーカルは不可)。ボーカル使用に対しては 0.2 の強制減点が行われる。
- ・プログラムは 2 分 ± 10 秒以内でなければならない。

(5) レベルⅤ

- ・スケーターは、リンクの上のどこでも演技を開始できる。
- ・スケーターが演技を開始した時点でジャッジと計時が開始される。
- ・これは上級のフリースタイルプログラムである。スピン、コンビネーションスピン、上級ジャンプ、コンビネーションジャンプ、フットワークの位置に重点を置きフリースケーティング(自由演技)のエレメントを含むバランスの良いプログラム。
- ・レベルⅤ、フリースタイルプログラムはいかなるシングルのローテーションジャンプを行うことができる。アクセルまたはマルチ回転は禁止である。レベルⅤ、フリースタイルのスピンは、足換え、または姿勢を変化させてもいいが、“フライングスピン”は禁止である。追加した各々のエレメントに対し 0.2 の強制減点が行われる。
- ・プログラムは器楽演奏による音楽に合わせて演じなければならない(ボーカルは不可)。ボーカルの使用に対しては 0.2 の強制減点が行われる。
- ・プログラムは 2 分 30 秒 ± 10 秒以内でなければならない。

(6) レベルⅥ

- ・スケーターは、リンク上のどこでも演技を開始できる。
- ・スケーターが演技を開始した時点でジャッジと計時が開始される。

- ・ レベルVIのフリースタイルプログラムは、最上級のプログラムで、フライングスピンの、足換え、姿勢の変化、アクセル、ダブルジャンプ、そしてどんなコンビネーションも可能である。プログラムには、ストレートライン、サーキュラー、またはサーペンタインのフットワークシーケンス、それと最低3回の足換えポジションのあるスパイラルシーケンスを必ず含まなければならない。
- ・ プログラムは器楽演奏による音楽に合わせて演じなければならない(ボーカルは不可)。ボーカル使用に対しては0.2の強制減点が行われる。
- ・ プログラムは3分±10秒以内でなければならない。

3) 得点及び順位(採点の方法)

(1) レベル A、B

- ・ レフリー1名、ジャッジ3名とする。ただし、レフリーはジャッジを兼ねることができる。
- ・ レベルAについては2課題にそれぞれ最高6.0点、合計最高12.0点満点で採点する。
- ・ レベルBについては3課題にそれぞれ最高6.0点、合計最高18.0点満点で採点する。

(2) レベル I、II、III、IV、V、VI

- ・ スケーターは、コンパルソリーとフリースタイルの両方を演技しなければならない。
- ・ レフリー1名、ジャッジ5名とする。ただし、レフリーはジャッジを兼ねることができる。
- ・ コンパルソリーの順位はワンバイワン方式により決定する。
- ・ フリースタイルの順位はワンバイワン方式により決定する。
 - ①テクニカルメリット6.0点満点で採点。
 - ②プレゼンテーション6.0点満点で採点し、合計12.0点満点。
 - ③合計点が同点の場合はプレゼンテーションの得点が高いほうが上位となる

4) 最終順位の決定

- ・ レベルA、Bにおいては決勝の合計得点の高いスケーターが上位となる。
- ・ レベルI、II、III、IV、V、VIにおいてはコンパルソリーで決定した順位に、コンパルソリーの係数33.3%を掛けた数値と、フリースタイルで決定した順位にフリースタイルの係数66.7%を掛けた数値がそれぞれ順位点となり、2つの順位点の合計が低い数値のスケーターが上位となる。
- ・ 最終の順位に基づき表彰を行う。

5) 資格の剥奪

アスリートまたはその担当のコーチがスポーツマンシップに著しく欠けていると判断されたとき、ルール委員会はアスリートまたはその担当のコーチの資格を剥奪し、退場を命じることができる。その場合、アスリートは表彰を受けることができない。

6) 服装・用具

スペシャルオリンピックスのシングルの競技会において、競技者の衣装は節度と品位のあるものでスポーツの競技会に適したものでなければならない。けばけばしいものや芝居じみたデザインでないこと。ただし、衣装は選んだ音楽の特徴を反映するものであってよい。

- ・ 衣装はスポーツ競技用として過度に肌を出したように見えるものであってはならない。
- ・ 男性はズボンを着用しなければならない、タイツは許可されていない。
- ・ アクセサリーや小道具を用いたりすることは許可されていない。
- ・ 上記の要件にふさわしくない衣装の着用に対しては、1.0の減点がある。

7) その他

- ・ 各種目におけるスケーターの滑走順については、競技開始以前に無作為抽選にて決定する。
- ・ スケーターの演技が正常に行われなかったとレフリーが判断した場合、担当コーチと確認のうえ、1回のみ演技のやり直しを命ずることができる。
- ・ 音楽素材について
カセットテープ・MD(予備のカセットテープを持参すること、特に MD のアスリートは注意)
※素材には出場種目、氏名、所属、演奏時間を明記すること。

7. 抗議

ヘッドコーチのみ(欠席時は他の登録コーチ)、最初のリザルトの掲示後 15 分以内に、所定の用紙に必要事項を記入し抗議できる。

8. その他

- ・ 本ルールおよび競技要項に定めない事項は、その都度ルール委員会が決定する。

9. 日程

2月11日(土) 開始式・予選競技
12日(日) 決勝・表彰式